

# FAO Newsletter

2008年5月  
Vol. 26



今月の統計

コメの国際価格

2008年3月

1.7倍  
(対前年同月比)

発行：(社)国際農林業協働協会(JAICAF) www.jaicaf.or.jp 〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階 TEL：03-5772-7880 Email：fao@jaicaf.or.jp

Contents

目次

- 2008年コメ生産高1.8%増加見込み
- FAO、EBRDと共同で食料価格高騰の抑制を喚起
- 「将来の食料」に熱い視線
- 「国際イモ年2008」フォトコンテスト始まる
- 違法漁業の取り締まり強化へ
- アヒルと水田が鳥インフルエンザ拡散に大きく関与
- インドネシア、鳥インフルエンザの危機
- 小麦キラー、イランで発見される
- FAO日本事務所、緑資源機構と共催で「アフリカの農業と環境フォーラム」：市民参加の農村開発の重要性を再認識

食料事情

Food Situation



## 2008年コメ生産高1.8%増加見込み 短期的には貿易が縮小し、困難が続く



©FAO/R. Grossman

▲収量増加により価格高騰が緩和されることが期待される

2008年の世界のコメ生産量は、平均的な気象条件のもと、前年比の1.8%増に当たる1,200万トン増となる見通しで、現在主要なコメ生産国が直面している供給難を緩和すると期待されています。増産傾向にあるのは、アジア、アフリカ、ヨーロッパの各国で、高い国際価格に裏付けられた政策転換が一因となっています。しかし、深刻な在庫不足による供給減のため、短期的には大きな米価変動が予測され、不安定な市況は今後も続きそうです。一方、コメの輸出量は前年比110万トン減の2,990万トンまで落ち込む見込みであり、主要輸出国のうち中国やインド、エジプト、ベトナムなどでは輸出制限も行われて

います。2007年のコメ生産量は1%増加の6億5,000万トンであり、コメの国際価格は2008年1月より約20%増となっています。(4/2、ローマ)

## FAO、EBRDと共同で食料価格高騰の抑制を喚起

### 東ヨーロッパにおける農業生産の潜在力を引き出す

世界の食料価格が高騰を続けるなか、東ヨーロッパと旧ソ連の政府関係者らが、農業への資本投資を促進するために民間企業と公的機関が連携していく道を模索しました。会議は3月にロンドンにおいて、FAOと欧州復興開発銀行（EBRD）により開催され、初歩的な農業セクターにとどまらず農業インフラおよび関連加工産業への包括的な投資が必要であることが確認されました。特に、東ヨーロッパとカザフスタンやロシア、ウクライナをはじめとする独立国家共同体（CIS）諸国では、財政面や制度上の制約を取り除くことにより、農業生産性を飛躍的に上げることができると期待されています。EBRDは提言のなかで、世界の需要に応えるためには、各国政府による価格統制や補助金などの市場介入ではなく、民間部門による産業全体に対する積極的な投資が望まれる一方、貧困層の消費者に対しては収入支援による保護が必要であるとしています。(3/10、ロンドン/ローマ)

関連ウェブページ

The European Bank for Reconstruction and Development : [www.ebrd.com](http://www.ebrd.com)  
FAO Investment Centre : [www.fao.org/tc/tci](http://www.fao.org/tc/tci)

国際イモ年

International Year of the Potato



## 「将来の食料」に熱い視線 持続的なジャガイモ生産システム強化が不可欠

3月にクスコ（ペルー）において、ジャガイモに関する国際会議が開催されました。ジャガイモは栽培が容易でエネルギーが高いことから開発途上国における生産と消費が大きく伸びて

おり、将来の食料安全保障に貢献すると期待されています。「国際イモ年（International Year of the Potato, IYP）2008」の一環として開催されたこの会議には90名以上の専門家が参加し、ジャガイモの生産性を高めるために、自然資源を持続的に利用する農業や、必要水量が少なく、病害や気候変動に強い品種開発等の実現が必要であることを確認しました。さらに、開

発途上国の生産に関する課題として、経済タイプ別に提案がなされ、特に貧困層が農村に集中しジャガイモを自家消費用に生産するサハラ以南アフリカのような農業基盤経済国では、持続的な生産を支えるための技術開発をまず優先し、次いで生産者を国内・地域内の商品市場につなげていくことが必要であることが提言されました。(3/25、クスコ/ローマ)

#### 関連ウェブページ

CIP/FAO Conference on potato science for the poor : [www.cipotato.org/Cuzco\\_conference/index.asp](http://www.cipotato.org/Cuzco_conference/index.asp)  
 International Year of the Potato : [www.potato2008.org](http://www.potato2008.org)  
 JAICAF : 国際イモ年 : [www.jaicaf.or.jp/fao/IYP/IYP.1.htm](http://www.jaicaf.or.jp/fao/IYP/IYP.1.htm)

## 「国際イモ年2008」フォトコンテスト始まる 飢餓との闘いにおけるジャガイモの役割に焦点を当て

FAOと国連は、「国際イモ年2008」にあわせ、開発途上国における食料や雇用に大きな役割を持つジャガイモに焦点を当てた「国際イモ年・世界フォトコンテスト」を始めました。コンテストは「グローバル・フード」としてのジャガイモに焦点を当て、ジャガイモの種の多様性、栽培、加工、消費、

さまざまな利用方法等に関する写真を募集します。応募期間は2008年3月12日から9月1日まで。プロ、アマ各部門の受賞者には総額1万1,000USドルの賞金およびニコンよりカメラ等が授与されます。(3/12、ローマ)



▲ジャガイモは世界第4位の食用作物である

#### 関連ウェブページ

IYP World Photography Contest : [www.potato2008.org/en/photocontest](http://www.potato2008.org/en/photocontest)  
 International Year of the Potato : [www.potato2008.org](http://www.potato2008.org)  
 JAICAF : 国際イモ年 : [www.jaicaf.or.jp/fao/IYP/IYP\\_1.htm](http://www.jaicaf.or.jp/fao/IYP/IYP_1.htm)

## 漁業

## Fishery



## 違法漁業の取り締まり強化へ 地中海における違法漁業者の規制に様々な措置

FAOの設置した地中海漁業一般委員会 (GFCM) は、IUU漁業 (違法・無報告・無規制漁業) の規制に向け、広域にわたる湾岸警備強化策を承認しました。GFCM加盟国で、荷下ろしや積み替え、水産物加工、燃料補給を行う外国船は、特定の港に停泊するにあたり、前もってその積荷や活動内容を通達することが義務づけられています。IUU漁業者は入港を拒否され、入港が許可された船舶の15%も、GFCMのガイドラインに沿った抜き打ち検査の対象となります。IUU漁業者と判断された船舶は、港へのアクセスが拒否されるほか、GFCMのブラックリストに載せられ、本国へ報告されます。また、更なる取締り強化の手段としてGFCMは、加盟国の船舶にモニタリングシステムを設置するための技術を検討する特別調査委員会を設置することを承

認しました。なお、個別の例として、資源量の減少が危ぶまれているメカジキを保護するため、今年10月15日から1カ月間にわたる捕獲の禁止を呼びかけています。(3/7、ローマ)



▲地中海メカジキの新たな保護へ

#### 関連ウェブページ

GFCM website : [www.gfcm.org/gfcm](http://www.gfcm.org/gfcm)  
 Reports and documents from GFCM's annual meeting : [ftp://ftp.fao.org/Fl/DOCUMENT/gfcm/gfcm\\_32/Default.htm](ftp://ftp.fao.org/Fl/DOCUMENT/gfcm/gfcm_32/Default.htm)  
 News release: New measures to protect Mediterranean fish stocks : [www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000479](http://www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000479)  
 News release: Countries agree to strengthen controls in ports to combat illegal fishing : [www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000508](http://www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000508)  
 Feature story: Stronger port security key to fight against illegal fishing : [www.fao.org/newsroom/en/news/2006/1000380](http://www.fao.org/newsroom/en/news/2006/1000380)

## 鳥インフルエンザ

## Avian Influenza



## アヒルと水田が鳥インフルエンザ 拡散に大きく関与 新たな科学的見解を発表

年から2005年にかけてタイとベトナムで発生した鳥インフルエンザについて、新しい研究結果を発表しました。複数の異なる要素がそれぞれウイルス拡散に与えた影響を計るモデルを適用したこの研究により、ウイルス拡散の主要因が、ニワトリではなく、アヒルと人間の個体数、そして水田の分布であること

FAOと関連研究機関の科学者からなる研究チームは、2004



©FAO/Hoang Dinh Nam

▲アヒルと水田はウイルス拡散の大きな要因となっている

が明らかになりました。研究チームは、収穫後のコメの落ち穂をエサとするアヒルと水田の分布、およびアヒルが市場に出回る時期が鳥インフルエンザの発生・拡散の場所および時期と強く結びついていることを指摘したうえで、ウイルスの発生が、アヒルの飼育と稲作を中心とした東アジアと東南アジアに限定されつつあることから、今後の動向について予測しやすくなってきたとしています。現在、世界の頭羽数が10億4,400万とされる家畜用アヒルのうち90%がアジアに生息し、そのうち中国とベトナムに全体の75%を占める7億7,500万が生息しているとされています。(3/26、ローマ)

**関連ウェブページ**

Mapping H5N1 highly pathogenic avian influenza risk (pdf) : [www.pnas.org/cgi/content/abstract/0710581105v1](http://www.pnas.org/cgi/content/abstract/0710581105v1)  
 Avian influenza : [www.fao.org/avianflu](http://www.fao.org/avianflu)

## インドネシア、鳥インフルエンザの危機

インドネシアでは、政府や国際社会の懸命な対応にもかかわらず、鳥インフルエンザが依然猛威をふるっています。鳥イン

フルエンザによるヒトの死亡率は世界で最も高く、更なる被害を防ぐには、ウイルスの根源を排除することが不可欠です。ウイルス拡散の状況によっては、ヒトインフルエンザへの変異も危ぶまれています。これまでウイルス抑制に失敗してきた理由として、分権的な行政や不十分な獣医サービス、養鶏業者の協力欠如、不十分な資本および人材などが挙げられます。効果的な監視システム、被感染体の緊急排除、ワクチン投与、バイオセキュリティの改善、実験設備の改善、そして適切な隔離処置など、全国レベルでの抑制策が必要とされるなか、国際社会には財政面をはじめとした一層の援助が求められています。(3/18、ローマ)



©FAO/Arif Ariadi

▲インドネシアの養鶏業者は鳥インフルエンザの危機に直面している

**関連ウェブページ**

The Australian Government's Overseas Aid Program : [www.ausaid.gov.au/keyaid/avian.cfm](http://www.ausaid.gov.au/keyaid/avian.cfm)  
 US Agency for International Development : [www.usaid.gov/our\\_work/global\\_health/home/News/news\\_items/avian\\_influenza.html](http://www.usaid.gov/our_work/global_health/home/News/news_items/avian_influenza.html)  
 OIE/FAO Network of Expertise on Avian Influenza : [www.offlu.net/Home/tabid/68/Default.aspx](http://www.offlu.net/Home/tabid/68/Default.aspx)  
 Avian influenza : [www.fao.org/avianflu](http://www.fao.org/avianflu)  
 Tapping local knowledge to battle avian influenza : [www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000631](http://www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000631)

**トピックス**

**Topics**



## 小麦キラー、イランで発見される 猛毒カビは東アフリカから中東へ移動

東アフリカとイエメンで確認されていた毒性をもつ新種のカビが、イランの主要小麦産地へと移動していたことが明らかになりました。カビは作物を全滅させ、小麦の生産に大きな被害をもたらす恐れがあります。アジア、アフリカにおける全小麦種の最大80%がカビに感受性を持つと推測されており、今後、イランの東に位置する、アフガニスタンやインド、パキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタンなどの主要小麦生産国は高い警戒が必要です。1999年にウガンダで最初に発見されたことから「Ug99」と呼ばれるこのカビは、その

後ケニアやエチオピアに拡大し、2007年にイエメンでも確認されました。カビの動向を監視するシステムや、抵抗性を持つ小麦の品種改良など、すでに対応策がとられていますが、FAOは改めて各国に警戒を呼びかけています。(3/5、ローマ)



©FAO/Wafaa El Khoury

▲毒性のカビが急速に拡がっている

**関連ウェブページ**

Global Rust Initiative : [www.globalrust.org](http://www.globalrust.org)



## FAO日本事務所、緑資源機構と共催で「アフリカの農業と環境フォーラム」：市民参加の農村開発の重要性を再認識

3月22日、緑資源機構の主催、FAO日本事務所等の共催で、在日アフリカ大使館や市民など約180名の参加により、「アフリカの農業と環境を考える～農村開発の視点から～」と題するフォーラムが開催されました。アフリカは、貧困や食料不足の問題を抱え、砂漠化等の環境問題が深刻化していますが、この解決のためにも、地域コミュニティに根

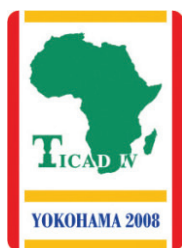


©JGreen

▲ステデュート氏

ざした持続的な農林水産業の発展と人口の3分の2以上が居住する農村の安定と開発が不可欠と考えられています。

基調講演を行ったFAO天然資源管理環境局ステデュート水開発管理課長は、アフリカの農村開発の課題と方向を説明し、水の重要性を強調しました。主催者である緑資源機構がサハラ以南



▲5月末に横浜で開催されるTICAD IVのロゴマーク

南アフリカで25年以上取り組んできた砂漠化防止と住民参加による農村開発に関して話題提供した後、会場も交えて「住民の主体性と身の丈に合った援助」というキーワードのもと、「日本はアフリカの農村開発のために何が出来るか」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

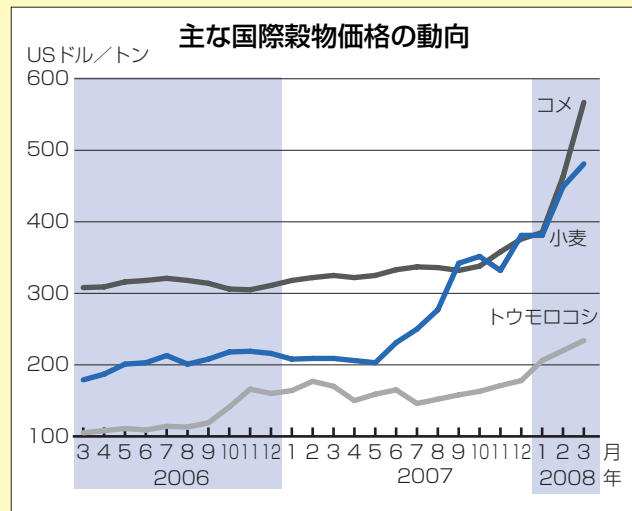
※講演内容は「世界の農林水産—FAOニューズ—」2008年夏号に掲載予定

### 5・6月の主な活動予定

※青字は日本国内

- 5/14 TICAD IV関連イベント学生企画—アフリカが街にやってくる!「TICAD国連機関スタディーツアー」訪問先:FAO日本事務所(神奈川・パシフィック横浜) 横浜国大、YOKEほか企画・運営
- 5/17-18 「アフリカン・フェスタ2008 in 横浜」(神奈川・横浜赤レンガ倉庫)外務省主催、JAICAF、FAO日本事務所出展
- 5/22 International Day for Biological Diversity
- 5/22 「国際生物多様性の日シンポジウム2008—農業・里山・食を通じて考える生物多様性」(東京・国連大学)国連大学ほか主催、FAO日本事務所後援
- 5/28-30 「第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)」(パシフィック横浜)
- 6/3-5 High-level Conference on World Food Security: the Challenges of Climate Change and Bio-energy, FAO, Rome

### 今月の統計をよむ



最近1年間で穀物の国際価格は、コメ1.7倍、小麦2.3倍、トウモロコシ1.4倍といずれも大幅な上昇を示しました。先進国では、食料は消費支出の10-20%を占めるに過ぎませんが、開発途上国では、この割合が60-80%にもなり、食料価格高騰は貧困層にとって死活問題になります。このため、すでに一部の国では食料暴動が報告されています。

今年の世界の穀物生産は、このような価格上昇に反応して作付面積が増え、4月に発表されたFAOの今年最初の予測によれば、対前年比2.6%増の21億6,400万トンとなっています。生産が予測どおり拡大すれば、現在の逼迫した需給は改善されますが、実際の作柄は、今後の天候に大きく依存します。世界の穀物在庫は、昨年よりさらに減少し、過去25年間で最低の水準になっているため、穀物の国際需給は不安定であり、特に、輸出国の天候いかんでは、逼迫した状態が長引いたり、さらに価格が上昇する恐れもあります。

(FAO日本事務所長 横山 光弘)

### テレフード募金にご協力をお願いします

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

郵便振替口座

00140-1-29732

(FAO飢餓撲滅草の根募金)

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。



### メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

### ニュースレターの配付について

本紙は、季刊誌「世界の農林水産—FAOニューズ—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。

※ニュースレターは指定場所でも配布しています。